

「永遠之繁栄」

青森県平川市・善光寺平開拓

青森県の中南部に位置し、秋田県と接する平川市は、2006年に南津軽郡の平賀町・尾上町・碓ヶ関村の3町村が合併して誕生した。旧・平賀町の善光寺平、大木平などは戦後開拓地で、高原野菜の栽培が盛んに行われている。

戦後、農村の二・三男対策として、各地で分村入植が行われた。善光寺平には52（昭和27）年、同郡畑岡村（現・北津軽郡板柳町）から37戸が入植した。

八甲田山連峰の南西部に位置する標高約700mの高冷地で、大木や竹が生い茂る原野だった。立木の伐採、伐根などの作業は人力で行った。豪雪地帯で積雪期間が長く、営農はなかなか進まなかった。製炭や山仕事などで生計を維持した期間が長かった。入植者のうち、戸は、将来への不安や生活苦のため、次々と離農し、山を去った。

善光寺平をはじめ、八甲田山周辺の高冷開拓地の営農不振が問題となっていた時、農林事務所等が中心となり、野菜の栽培が大々的に取り入れられた。善光寺平では、特に漬物用ダイコンに重点を置いた。やがて、大型トラクターの導入により農作業の省力化が進んだ。牧草畑と肉用牛を加味し、地力の減退を防ぐ堆肥づくりも行った。野菜栽培が本格的となり、規模拡大にも取り組み、営農は次第に安定した状態になっていった。

現在、善光寺平を中心に、八甲田山麓の高冷開拓地は高原野菜の一大産地となった。ダイコン、ニンジン、キャベツなどが栽培されている。

開拓地の入り口に生えている巨木のそばに、善光寺平開拓35周年記念碑がある。87年に入植者一同が建立したもので、碑銘は「永遠之繁栄」。

碑文には「希望と勇気をもて汗に汗し耐えに耐えて 基を築きし人々の徳が尊くしのばる その業績 その姿を永く後世に伝えんと朝夕ご恩を胸に記念碑を建立す」とあり、末尾に「祖を念い 祖の徳を修め 残りし我ら一徳一心善光寺平繁栄に鞭打つを誓う」と決意が刻まれている。

善光寺平開拓 「永遠之繁栄」

- ①調査日 2019年7月25日
- ②所在 平川市切明字津根川森
- ③地区の沿革 農村の二・三男対策として、十和田八甲田山麓の大木や竹が生い茂る高冷地の原野に昭和27年37戸が入植した。立木の伐採、伐根などの作業は人力で行ったが、豪雪地帯で積雪期間が長く、営農はなかなか進まなかった。
- ④設置年月日 昭和62年7月7日
- ⑤設置者 入植者
- ⑥碑名 開拓記念碑
- ⑦碑文（表面） 永遠之繁栄 平賀町長 奈良辰雄 善光寺平開拓三十五周年記念碑
- ⑧碑文（裏面） 天道を歩まんと約してここ善光寺平に入植の第一歩を刻みしは昭和二十七年 以来幾多の苦難を乗り越えて今ここに三十五周年を迎う感新たなるを覚ゆ 希望と勇気をもって汗に汗し耐えに耐えて基を築きし人々の徳が尊くしのばる その業績 その姿を永く幾世に伝えんと朝夕ご恩を胸に記念碑を建立す
- 時は戦後の大混乱期 旧畑岡村分村として三十七戸の入植 開拓に困難辛苦は覚悟なれども世は意のままならず離村者多数 現在十三戸の定着となる 豊沃の地となりしいま 高冷地野菜の生産を柱に生活の安定をみるは感慨深し祖を念い 祖の徳を修め 残りし我ら一徳一心善光寺平繁栄に鞭打つを誓う
- 昭和六十二年七月七日 善光寺平記念碑建立実行委員会
- ⑨現在の状況 開拓地の入り口に立地し管理されている。



徳祖を以て三以入
 一をを沃 三はご堂基望五の道
 念柱の現れ十教恩懐をと開敷第を
 墓いに地在ど七敷を 築勇年多一歩碑
 善光寺平繁徳安ののり戸は入混記安人もう難制と
 光十二年七月七日 建立実行委員会
 光寺平繁徳安ののり戸は入混記安人もう難制と
 光十二年七月七日 建立実行委員会
 光寺平繁徳安ののり戸は入混記安人もう難制と
 光十二年七月七日 建立実行委員会